

3. 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

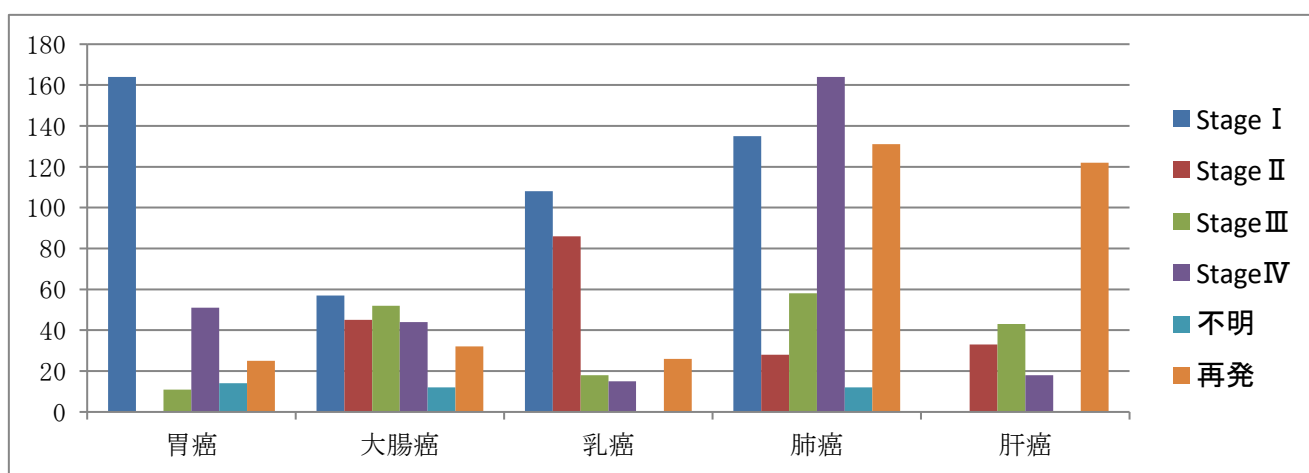
DPCで5大癌とコーディングされた初発・再発の患者を病期を示すUICC分類で分類しています。UICC分類はUICC（Unio Internationalis Contra Cancrum：国際対がん連合）が決定したがんの進行度を分類する方法です。早期がんをStageⅠとし、進行したがんをStageⅣで段階別に分類しています。「初発」とは当院で当該腫瘍の診断、診断と初回治療、初回治療を行ったものです。「再発」とは、初回治療が完了した後に患者を診療した場合や、局所再発、再燃、新たな遠隔転移を来した場合のものです。

令和7年度 初発の5大癌のUICC病期分類別ならびに再発患者数

【定義】

- ・5大癌について初発患者はUICC病期分類による患者数を、再発患者は期間内の患者数とする
- ・患者数は延患者数とする

部位	初発					再発	病期分類 基準	版数
	StageⅠ	StageⅡ	StageⅢ	StageⅣ	不明			
胃癌	164	—	11	51	14	25	1：UICC TNM分類	8
大腸癌	57	45	52	44	12	32	1：UICC TNM分類	8
乳癌	108	86	18	15	—	26	1：UICC TNM分類	8
肺癌	135	28	58	164	12	131	1：UICC TNM分類	8
肝癌	—	33	43	18	—	122	1：UICC TNM分類	8



コメント

令和7年度の初発・再発患者総数としては肺癌が最も多く、胃癌、乳癌、大腸癌、そして肝癌と続きます。肺癌は、手術の対象となるステージⅢAまでの症例数も多いですが、化学療法の対象となるステージⅢB以上や再発症例が半数以上を占めるのが特徴です。胃癌ではステージⅠが突出していますが、早期癌に対する内視鏡的治療などを積極的に行っていることが理由として挙げられます。大腸癌も早期癌に対する内視鏡治療は実施されますが、手術の対象となるステージⅡ以上の進行癌が多いのが特徴です。胃癌および大腸癌においてステージⅣおよび再発症例数が比較的小さいのは、化学療法がほとんど入院することなく外来で行われていることを反映していると考えられます。乳癌では、ステージⅠ・Ⅱと診断され治療を受ける症例が多数を占めています。ステージⅣおよび再発症例数が少ないのは胃癌・大腸癌と同じ理由と考えられます。肝癌の治療は、経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)や肝動注療法など局所療法を繰り返し行うのが特徴で、再発症例数が突出して多いのは、年度を超えて複数回の治療を行う患者が多いことを反映しています。